

令和七年度入学者選抜試験問題

人文社会科学部人文社会科学科（人間文化コース）

前期日程

国語

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の本文は、1ページから22ページまでです。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明・落丁・乱丁、解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 監督者の指示にしたがって、解答用紙に**大学受験番号**を正しく記入してください。**大学受験番号**が正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。
- 5 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

(補足説明)

試験問題 22 ページ、二の問 7 の問題文の
末尾に、次の文を加える。

書き出しを一字下げる必要はありません。
句読点などの符号も一字と数えます。

一 次に示す問題文Ⅰは瀬戸一夫による「贋物と本物 アニメーション版「ムーミン」が映し出すもの」(原文の表記を一部変更した)である。また、問題文Ⅱはイタロ・カルヴィーノ(須賀敦子訳)による『なぜ古典を読むのか』の一部(原文の表記を一部変更した)である。問題文Ⅰ、問題文Ⅱを読んで後の問い(問1～8)に答えなさい。

問題文Ⅰ

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

著作権の関係上、省略します。

問1 問題文Iの傍線部ア、オのカタカナを漢字に直し、楷書で書きなさい。

問2 問題文Iの傍線部A「飛行おにの話すところによると、かれの偉大な魔力によっても、ムーミンがもつルビートの王様だけは創造できない」ということであった」について、なぜ「飛行おに」が「ルビートの王様だけは創造できない」のか。その理由について三十字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問3 問題文Iの傍線部B「メルヘンに固有な世界」とはどのような世界なのか、三十字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問4 問題文Iの傍線部I、Vについて、次の問いに答えなさい。

① 言葉の働きが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

② ①の解答の理由について、その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 解答したものは形容詞であるが、その他は助詞である。

イ 解答したものは形容動詞であるが、その他は助詞である。

ウ 解答したものは動詞であるが、その他は助動詞である。

エ 解答したものは形容詞であるが、その他は助動詞である。

オ 解答したものは形容動詞であるが、その他は助動詞である。

問5 問題文Ⅰの空欄 a) d に当てはまる言葉の組み合わせとして、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|-------|-------|-------|-------|
| ア | a 真の姿 | b 真の姿 | c 仮の姿 | d 仮の姿 |
| イ | a 仮の姿 | b 真の姿 | c 真の姿 | d 仮の姿 |
| ウ | a 真の姿 | b 仮の姿 | c 仮の姿 | d 真の姿 |
| エ | a 仮の姿 | b 仮の姿 | c 真の姿 | d 真の姿 |
| オ | a 真の姿 | b 仮の姿 | c 真の姿 | d 仮の姿 |

問6 問題文Ⅰの傍線部C「神は自らを救うものを救う」とはどのような意味か。「大切」という語を用いながら、三十字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げの必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問7 問題文Ⅰの傍線部D「古典と呼び習わされてきたもの」について、Ⅰでいう「古典」に当てはまる古典の定義として、最も適当なものを問題文Ⅱから二つ選び、Ⅱの文中の数字で答えなさい。

問8 問題文Ⅱの傍線部E「古典とは、その作品自体にたいする批評的言説といふこまかいほりをたてつづけるが、それをまた、しげんに、たえず払いのける力をそなえた書物である」を踏まえて、ムーミン物語「飛行おにあらわる」が古典であることを、問題文Ⅰの著者の意見で説明している文として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 著者は、同じ作品に以前よりも深い問い掛けをしているのであり、同じ作品から成長に従った答えを得られる、と考えている。
- イ 著者は、メルヘンの世界が理屈で構成されているのではないことを認めつつ、「飛行おにあらわる」の物語には疑問がある、と考えている。
- ウ 著者は、ものごとの奥深い真相を「飛行おにあらわる」に代表されるムーミンのアニメ作品が語りかけてくる、と考えている。
- エ 著者は、「飛行おにあらわる」という物語も記憶の闇に呑み込まれ、年月の圧力によって、どこか変形してしまっていると考えている。
- オ 著者は、「飛行おにあらわる」という物語が、つねに同じ最終的解答を与えてくれるのでありそこに価値がある、と考えている。

- 二 次に示す問題文Ⅰは川上弘美による『恋ははかない、あるいは、プールの底のステーキ』の一部(原文の表記を一部変更した)である。また、問題文Ⅱは田中瞳子による『朝日新聞』二〇二三年九月二〇日付掲載の書評(原文の表記を一部変更した)である。問題文Ⅰ、問題文Ⅱを読んで後の問い(問1～7)に答えなさい。

問題文Ⅰ

著作権の関係上、省略します。

問1 問題文Iの傍線部I～Vについて、次の問いに答えなさい。

① 言葉の働きが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

② ①の解答の理由について、その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 解答したものは主体を表すが、その他は対象を表す。
- イ 解答したものは主体を表すが、その他は所有を表す。
- ウ 解答したものは対象を表すが、その他は主体を表す。
- エ 解答したものは対象を表すが、その他は所有を表す。
- オ 解答したものは所有を表すが、その他は主体を表す。

問2 問題文Iの傍線部A「反対に、カズの声がうまく耳に入っていない」について、「わたし」がこのときカズと電話を始めたときの気持ちを、三十字以上、四十字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問3 問題文Iの傍線部C「マスクがいつもよりもっと顔にまとわりつくような心地」とあるが、「顔にまとわりつくような心地」になったのはなぜか。八十字以上、百字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問4 問題文Iの傍線部D「ミカンをむき、今日は一房ずついいねいに食べた。すっぱくも甘くもなかった」とあるが、傍線部B「乱暴にむき、二房、三房ずつ、口に放りこむ。味はほとんどしない」と比較して、「わたし」の気持ちのどのような変化が表されているか。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア カズが検査結果をなかなか連絡してこないのにいらいらしていたが、陰性と聞いてようやく安心した。
- イ カズの検査が陰性と知りほっとはしたが実体感がないと聞いて、まだ完全には安心できていない。
- ウ 執筆の手が止まり投げやりに食べたとは異なり、今回は友人との会話で気分転換できてのんびりした。
- エ カズの検査結果を知り安心したが、昔から現在にいたるまでのカズとの距離をまだ測りかねている。
- オ 小説の推敲を終えてしまい新たな文章をひねり出さなければならぬ状態から、友人との会話で救われた。

問5 **問題文Ⅰ**の傍線部E「その顔が、前の設楽とちがう顔になってたんだよ」について、なぜカズはそう感じたのか。また、「わたし」はそれに対してどう考えているのか。これらについて、八十字以上、百字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問6 **問題文Ⅱ**の、男女の関係性を述べた傍線部F「定型にはめようとした途端、するりと逃げていく」について、次の問いに答えなさい。

① **問題文Ⅰ**の発言のうち、この例として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「じゃ、言わないことにする。こわいから」

イ 「新型コロナじゃない風邪だったみたい」

ウ 「でも、目に見えるものが実感をなくしてる」

エ 「しまった。夢とか孤独とか、カズとだと、うかつだなわたし」

オ 「二度喋っちゃうと、もう書けなくなるかもだよ」

② ①の解答の理由について、八十字以上、百字以内で説明しなさい。書き出しを一字下げる必要はありません。句読点などの符号も一字と数えます。

問7 **問題文Ⅱ**の傍線部G「登場人物は過去の出来事を思いだし、またそつとしまつことを繰り返す」について、**問題文Ⅰ**で対応する四十以上、五十字以内の一文を抜き出しなさい。